

進路だより

令和3年4月23日発行

岩手県立釜石祥雲支援学校

進路指導部

< 校長挨拶 >



今年度も満開の桜に迎えられて始業式・入学式を挙行し、令和3年度の学校生活が始まりました。本校舎にも高等部校舎にも、そして病棟にも児童生徒の笑顔と元気な声があふれ、学校全体が明るく活気に満ちています。

本来、これから始まる学校生活を思い描けば、様々な活動場面が思い浮かぶところではありますが、新型コロナウイルス感染症については、未だ終息の見通しがもてず、今年度もまた日常生活や学校生活に様々な影響が及ぶこととされます。しかしそのような厳しい状況下にあっても、感染症対策や工夫を行いながら、できうる限りの教育活動を実施していきたいと考えております。



岩手県立釜石祥雲支援学校
校長 柏崎りえ

進路に関わるのところでは、岩手県特別支援学校校長協議会において、昨年度は高等部の前期現場実習中止が決まりましたが、今年度は各地域の状況を踏まえた上で、前期のところから現場実習を実施することが可能になりました。何をおいても生徒の安全を第一に考え、各地域の実習先のご理解があって成り立つ活動ですので、日頃からの体調・健康管理等につきましては、なお一層のご理解とご協力をお願いいたします。

日々刻々と変化する現状を受け止めながら、県内全ての特別支援学校では、校内実習の更なる充実はもちろんのこと、各圏域のネットワーク会議等を通じて、高等部3年生を中心とした個々の情報交換を密に行っていくことを確認しております。保護者の皆様におかれましては、コロナ禍での様々な状況を乗り越えるために、学校と家庭が一体となって情報交換を積み重ねながら、生徒たちの働く力を育てていきたいと思っておりますので、ご理解のほどお願い申し上げます。

そして改めて、働く力を支える基本的な生活習慣の確立と健康管理の大切さについて意識を高めていくときであると感じています。学校生活において「進路」という言葉を聞くと、高等部になってからというイメージが強く、小学部や中学部のうちは、まだまだ先のことと思われがちですが、自分でできることを増やし、生活に必要な体力を付け、そして衛生に関わる習慣を身に付けるためには、小学部からの積み重ねが大切です。

子どもたちが、自分らしく充実した人生を歩んでゆけるよう、学校は保護者の皆様と連携し、子どもたちの成長を支えていきたいと考えております。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。



卒業生の様子

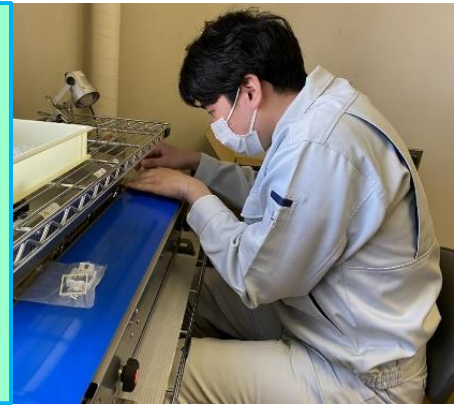
3月に高等部を卒業した7名が、それぞれの進路先で元気に新たなスタートを切りました。



まごころ就労支援センター釜石の後藤さん。はさみで布を7ミリ幅に切っていました。



夢工房・カトリアの小室さんと菊池さん。手を止めることなく作業を進めていました。



かまいしワーク・ステーションの鬼頭さん。クリーニング後の掃除をしました。綿ゴミが沢山ありました。



あいぜんの里に勤務。心配なので、電話をすると『元気でやっています』とのこと。

コロナ対策のため、中に入れませんでした。実習中の写真で申し訳ありません。



四季の郷の海七太さん里紗さん。窓越しに様子を見ましたが、笑顔いっぱいでした。



進路担当職員のご紹介

今年度の進路担当職員です。進路に関してご不明な点などがありましたら、各学部の担当職員までご相談ください。よろしくお願いいたします。



斎藤道幸（高等部）



菅野崇子（高学部）



鈴木思子（中学部）



菅野千暁（小学部）

お知らせ

先日お配りした進路希望調査①（対象小学部2年生～高等部3年生）の提出が4月28日(水)までです。提出がまだの方はよろしくお願いいたします。

